

西ノ島町総合振興計画・総合戦略の策定について

- ①計画の位置づけ
- ②町民アンケート調査結果
- ③庁内ヒアリング調査結果
- ④人口推計
- ⑤策定体制・スケジュール

西ノ島町のこれからのまちづくりに関する意見交換

島の魅力を活かす3つの方策

- ①資源を活かして働く
- ②助け合い健やかに暮らす
- ③自然とともに暮らす

人口目標

Keep3000!

島の魅力を活かす3つの方策 ①資源を活かして働く

共感・賛同

- ・今ある人・もの・自然を最良な形で活用できている
- ・離島、かなぎ漁、テキサスゲート、自然など、隠岐・西ノ島ならではの資源
- ・資源を活かすしかない、ここで暮らすしかない
- ・土地を持っている人と使いたい人をつなぐ
- ・インターネット環境が良くなった
- ・一次産業に対して支援が豊か

意見・提案

- ・何を資源と考えるか：人、通信インフラ、神社、お寺、祭、かぐら、神話、…
- ・地域資源の活かし方
- ・農業、漁業だけで持続（競争）可能か
- ・半農半X、兼業の推進
- ・観光（体験）×産業
- ・企業誘致
- ・ふるさと納税により新たな財源・人材を獲得
- ・島留学生やIターン者への支援（窓口の設置）
- ・後継者育成
- ・次代を担う子ども達の見解をどう反映させていくか

島の魅力を活かす3つの方策 ②助け合い健やかに暮らす

共感・賛同

- ・ニシノシマビトの心（あなたも私もOK）
- ・島民同士での声かけや助け合いがきている
- ・近所とのつながりはこのまま続けていきたい
- ・してほしいこと・できることをシェアする機会をつくる
- ・健康が一番
- ・お年寄り子どもとふれ合うことで元気になる
- ・子育て支援は厚い

意見・提案

- ・隣の人とちょっとした助け合い（買い物、悩み相談）ができる関係
- ・1人1人の力が活かされる体制ができていない
- ・昔は小さい単位（組など）で集まりがあったが今はない
- ・子どもがバス通学になってからお年寄り子どもとのふれ合いの機会が減った
- ・ボランティアの減少
- ・地元の若者が会える機会（同窓会など）を作る
- ・西ノ島町以外とのつながり
- ・「助け合い」という言葉があいまい
- ・高齢者の生活支援（運転、買い物）
- ・総合公園・キャンプ場などの町民利用の促進

島の魅力を活かす3つの方策 ③自然とともに暮らす

共感・賛同

- ・自然とともに暮らすしかない
- ・自然の豊かさを実感する・誇りに思う
- ・自然を活かした生活スタイルを今後追求していくべき（畜産・水産）
- ・ジオパークは残したい
- ・エネルギーの自立化をさらに進めるべき

意見・提案

- ・豊かな自然に魅力を感じ町民も誇りに思っているが、環境整備、維持管理が十分にできていない
- ・魚介類はおいしいが手に入りにくい、地元の人でも（安く）手に入りやすいように流通・販売システムを見直すべき

人口目標 Keep3000！

人口増／維持

- ・ 町を継続するためには人口維持以上は必要
- ・ 現状維持には努力が必要
- ・ 本土に出る人を留める方策
- ・ 移住者を増やす：特にUターン、30～50代
- ・ 生産年齢人口を増やす取組：島留学生を増やす、企業誘致、企業からの人材誘致
- ・ 「移住」→「定住」に向けた環境づくり（家族、仕事、地域での役割、生きがいなど）
- ・ ふるさと教育等で地元への愛着を育む

人口減

- ・ 人口減少が止まる気配はない
- ・ 目標数はこのままで良いのか
- ・ 人口減少を見据えた計画に：コンパクト化、減っても暮らせるまちづくり
- ・ 担い手不足への対応：医療、介護・福祉分野

その他

- ・ 数字にこだわることに意味があるのか
- ・ 目標値は決めなくても良いのではないか
- ・ 数よりも人口構成（出身、年齢など）が重要
- ・ 町民が当事者意識を持つ、自分たちで汗をかく、今いる人で何とかする